

日時 8月21日(土) 9:20～11:35
場所 諏訪市文化センターホール及び集会室
講師 有賀寛芳 先生 北海道大学大学院薬学研究員分子生物学教授
演題 「癌とパーキンソン病～異なる疾患の共通性と治療薬を求めて～」

※一般の方もご自由にご参加頂けます。

お問い合わせ:長野県諏訪清陵高校 石城(教頭) 小嶋(担当)

電話 0266-52-0201 Eメール seiryu-hs@pref.nagano.lg.jp

1. 有賀 寛芳先生の紹介

北海道大学大学院薬学研究科・教授。

諏訪清陵高校出身。東京大学薬学部卒業。東京大学大学院薬学研究科博士課程修了(薬学博士)後、米国アルバートアインシュタイン医科大学・研究員、東京大学医科学研究所・助手、米国ニューヨーク州立大学・研究員などを経て1998年より北海道大学薬学部・教授となる。

専門は細胞癌化と神経変性疾患の分子機構。

先生は癌の原因となる遺伝子の研究をなさっています。先生は中学2年生の時に癌の分子機構の解明をする研究者になろうと決心したそうです。大学院時代から現在まで一貫して発癌機構を遺伝子レベルで解明してこられました。その研究の中で、癌化にかかわる遺伝子の中にパーキンソン病の原因になる遺伝子があることを発見しました。癌もパーキンソン病も現在たくさんの患者がいて、決定的な治療もなく患者の方やその御家族の経済的・精神的負担が大きな問題になっています。そのような人達を救うべく日夜研究をなされています。



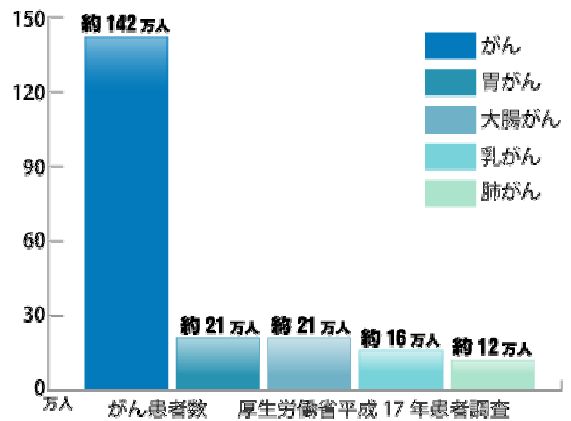
2. 癌・パーキンソン病について

現在日本人の三分之一は癌で死亡しています。2005年の厚生労働省の調査では癌の患者数は142万3千人にのびりました。また、パーキンソン病患者数は14万5千人で、人口10万人に100人という割合です。諏訪市の人口は約5万人なので諏訪市には50人ほどのパーキンソン病の患者がいるという計算になります。

癌の治療には薬代や入院代など大変な費用がかかります。平成15年厚生労働省の統計では入院にかかる負担額は胃癌35万、肺癌32万円、乳癌23万円、白血病86万円です。また、癌の薬にはとても強い副作用があるため、患者や家族の負担は想像以上に大きいものになります。癌の治療薬や治療法は、この負担を軽減させることができ、その開発のための癌の機構の解明は、まさに緊急の課題。有賀先生はその治療薬の開発を行っているのです。

対してパーキンソン病は現在治療法が無く、薬を飲んで症状を緩和するという事しかできません。また体の自由が利かなくなっていくので、その家族には経済的な負担だけではなく介護による精神的な負担もかかります。患者本人や家族の負担を軽減するためにも、治療薬の開発は非常に重要な問題です。

先生は、癌に関わっている遺伝子がパーキンソン病ともかかわりがあることを発見し、その遺伝子に関わる物質を調べることで、パーキンソン病の治療薬の開発もなされています。先生の研究は癌とパーキンソン病に苦しんでいる人どちらも救うことができる可能性を持っているのです。



パーキンソン病の気になる症状

- ★手足が震える。字が書けない
- ★つまづきやすい。転びやすい。足をひきずる
- ★声が出ない。声が震える。声が小さい
- ★表情がなくなった
- ★動きが悪くなった。ひとつの動作に時間がかかるようになった
- 力が入らない。疲れやすい
- 手足がしびれる。肩凝り。腰痛
- 姿勢が悪くなった
- 人と会ったり外出するのが嫌になった
- よだれが多くなった
- 座っていると自然に体が傾くようになった

※これらの症状があれば神経内科を受診することが望ましい。
特に★の5項目は要注意。ひとつも当てはまれば受診を